

ローランド株式会社

2024年12月期第2四半期決算説明会 Q&A 要旨

日時：2024年8月8日 13:00~13:50

説明者：代表取締役社長 CEO 兼 CIO 蓑輪 雅弘、執行役員 CFO 袴田 裕一

Q1. 競合各社の価格訴求が増加しているとのことですが、どの製品カテゴリーで増加しているのでしょうか。また、影響について教えてください。

特に電子ピアノで増加していると認識しています。今期中は継続すると考えています。当社の製品在庫はおおむね適正な水準にあり、価格訴求は極力避けています。3月発売の新製品効果などもあり、シェアに大きな変化はないと考えています。

Q2. 景気の不透明感がある中で、今期以降の見通しについてどのように考えているか教えてください。

今期中は厳しい環境が続くと考えています。一方で、コロナによる混乱の様々な調整が終息し、新製品比率も高まる来期は、電子ピアノを含めプラス成長に転換していくと考えています。

Q3. 米国楽器チェーン店の Chapter11 申請に伴う売上影響と会計上の影響について教えてください。

売上影響は、北米売上の2-3%程度を想定しています。会計上の影響は、特別損失を約1.5億円計上しており、これは主に売掛金の未回収に対する貸倒引当金です。

Q4. 製品別売上高（説明会資料 P.8）について、クリエイション関連や映像音響機器でのマイナス幅が大きい要因について教えてください。

クリエイション関連機器については、北米で比較的大きな影響を受けています。また、一部のシンセサイザーなどは発売から相応の年数が経過していることから競争力が若干落ちています。新製品の投入で、今後挽回していく計画です。

映像音響機器については、前期は新製品が好調だったのに加え、コロナ禍の受注残に対応する販売が上乘せられていたため、反動減が大きく出ています。

Q5. 製品別売上高（説明会資料 P.21）について、日本のエレキギターメーカーの倒産などギター本体が厳しい環境の中で、ギター関連機器が現地通貨ベースでも増収となっている要因を教えてください。

エレキギターやアコースティックギターの事業環境は厳しいと想像していますが、コロナ過でギターを買われた多くの方が、当社のギター関連機器（エフェクターやアンプなど）を買い足していく動きが活発になっています。また、4-6月期にはギターアンプの新製品を発売しましたが、大変好調です。

Q6. 中国の状況と来期以降の見通しについて教えてください。

教育政策の変化により、アコースティックピアノほどではないですが電子ピアノも厳しい状況が続いています。電子管楽器では、需要の一巡や、中国メーカー製の低価格帯製品の影響を受け伸び悩んでいます。ただ、中国は人口も多く、また、足元でも趣味色の強いギター関連機器やシンセサイザーなどの売上は伸びてきておりますので、長期的に見れば成長市場と見ています。

Q7. 中国のマイナス影響要因として、インパクトが大きいのは景気影響でしょうか、それとも教育政策の変化でしょうか。

景気影響もあるかと思いますが、電子ピアノや電子ドラムは教育政策変化の影響が大きいと認識しています。

Q8. 新製品の発売効果はどの程度続くのか教えてください。

効果の大きい期間は製品カテゴリーによって異なります。ピアノなどは比較的長いですが、シンセサイザーなどのコアなユーザー向け製品では、発売後数か月が販売のピークになるケースが多いです。

Q9. ローランド ディー.ジー.社との今後の関係性について教えてください。

ローランド ディー.ジー.社の MBO に伴い保有株式はすべて売却をしておりますが、「Roland」というブランドを共有している会社としてコラボレーションなどを継続していきたいと考えています。

※本資料は、ご出席者様から頂戴した主な質問をとりまとめたものです。回答の意図をより分かりやすくするため一部加筆修正を行っております

免責事項

本資料には、ローランド株式会社の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、

当社における実際の業績と異なる恐れがあります。